

大豆の生育状況(水戸市)

地域名	品種	生育ステージ	対平年遅速	生育(作柄・品質)概況等	これまでに講じた対策 及び今後の方針
水 戸	里のほほえみ	収穫終了	7日遅い	1)気象概況:大豆生育期間(6月19日～11月4日) 生育期間を通じての平均気温は平年に比べて+0.6℃高かった。時期別にみると、7月の気温は平年に比べて-1.9℃とかなり低く、8月は+1.5℃、9月は+1.7℃、10月(～収穫の11/4まで)は+2.2℃とかなり高かった。降水量は772mm、平年比113%でやや多かった。時期別では、開花直前～開花期である7月29日～8月19日(22日間)の降水量が5.5mmで平年比7%とかなり少なかった。10月(～収穫の11/4まで)の降水量が389mmで平年比220%とかなり多かった。日照時間は715時間で平年比91%と短かった。時期別では7月と10月が短く、8月と9月が長かった(水戸地方気象台観測値。平年値は直近5ヶ年の平均値。別紙に図示)。 2)生育概況 ●里のほほえみ:平年と比べて、開花期は1日遅く、成熟期は7日遅かった。主茎長はやや長く、主茎節数はやや多く、分枝数は平年並、茎の太さはやや細く、全重はかなり軽かった。結実英数は少なく、粗子実重、精子実重はやや軽かった。百粒重はやや重かった。 ●納豆小粒:平年と比べて、開花期は3日遅く、成熟期は11日遅かった。主茎長はやや短く、主茎節数は平年並、分枝数はやや少なく、茎の太さは平年並だった。全重はかなり軽く、結実英数は平年並、粗子実重、精子実重、百粒重はやや重かった。 両品種とも成熟期が平年より遅くなったが、これは10月の気温が高かったことと降水量が多かったことが影響したと考えられた。また、全重がかなり軽かったが、7月の日照不足と低温および8月の降水量がかなり少なかったことなどが影響したと考えられた。	紫斑病・英害虫の防除を実施した。
	納豆小粒	収穫終了	11日遅い		

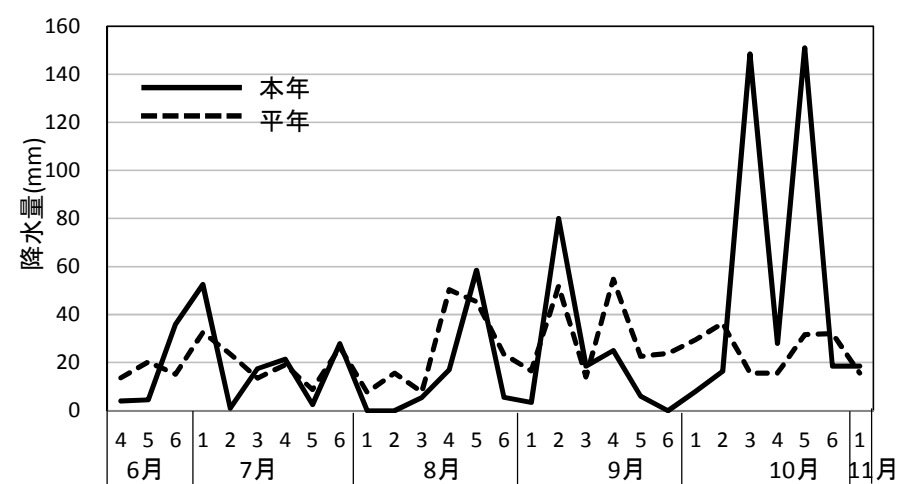
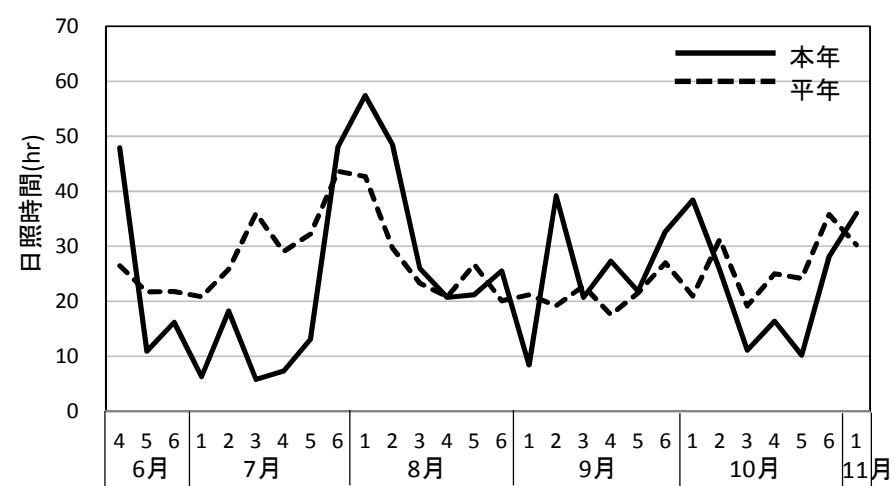
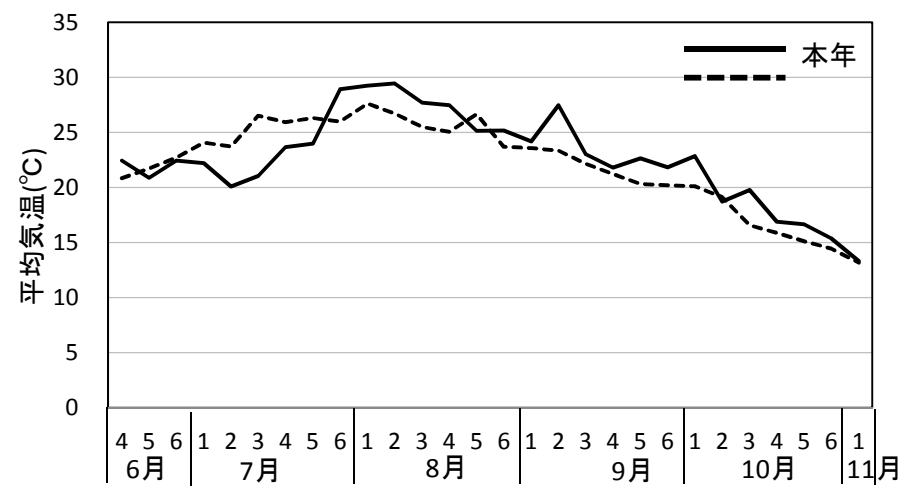
表 畑における生育(水戸市 茨城県農総セ農研 作物研究室)

品種名	開花期			成熟期			主茎長			主茎節数			分枝数			茎の太さ		
	本年 (月日)	前年差 (日)	平年差 (日)	本年 (月日)	前年差 (日)	平年差 (日)	本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (節)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本/株)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (mm)	前年比 (%)	平年比 (%)
里のほほえみ	8. 2	+3	+1	10.28	+3	+7	63.1	112	110	13.7	100	105	4.6	114	101	10.2	87	88
納豆小粒	8.10	+3	+3	11. 5	+7	+11	71.8	92	88	16.3	92	95	5.7	85	90	9.2	86	98

品種名	全重			結実英数			粗子実重			精子実重			百粒重		
	本年 (kg/a)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (英/株)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (kg/a)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (kg/a)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (g)	前年比 (%)	平年比 (%)
里のほほえみ	67.6	85	65	48.6	89	77	37.0	100	93	28.8	99	92	44.1	116	107
納豆小粒	68.8	84	74	170.4	78	97	39.9	107	108	31.4	108	112	12.2	124	109

耕種概要 1)圃場(来歴):表層腐植質黒ボク土(輪換畑圃場1年目) 2)播種日:6月19日 3)栽植密度: 11.1株／m²(畦間60cm×株間15cm 1本立)
4)施肥量 N-P₂O₅-K₂O=0.3-1.0-1.0kg/a 5)平年値:平成26～30年の結果の平均。「里のほほえみ」は平成27年から実施のため、平成27年～30年の結果の平均。
6)茎の太さは第1節(子葉節)と第2節(初生葉節)の節間で測定。 7)精子実重:脱穀後ローラー選別機にかけた後、大粒6.7mm、小粒4.2mmでふるいにかかけ、残った子実の重さ。

令和元年半旬別気象経過図
(水戸地方気象台データを参考に作成。平年値は直近5年間の平均値。)





里のほほえみ(10月28日撮影)



納豆小粒(11月7日撮影)